

Ⅳ 中学部の各教科（解説②P 98～151）

* 新設事項

太字変更・追加

重点・変更



1 国語

【改訂の要点】

- (1) 目標は、日常生活に必要な国語及び「伝え合う力」を活用する能力と態度を育てることが重要であるという視点から改めた。
- (2) 内容は目標の改訂を踏まえるとともに「聞く・話す」、「読む」、「書く」の各観点について、生徒の知的障害の状態等を考慮し、より分かりやすくする視点から改めた。

第2章第2節第2款の1（小・中12ページ）

【目標】	改訂のポイント・補足説明【解説書②p98】
日常生活に必要な国語についての理解を深め、 伝え合う力を高めるとともに、それらを活用する能力と態度を育てる。	・「伝え合う力を高めるとともにそれらを活用する能力と態度を育てる」ために、「日常生活の中で、人と対話し、意思の疎通を図る力を高めて、国語を使って様々の事柄を表現する能力、また、表現しようとする意欲や態度を育て、生徒が生活でそれらを活用できる力を伸ばすこと」を重視して指導を行うこと。 ・その際、小学部段階での指導を踏まえて一人一人の目標や指導内容を具体的に設定すること、集団生活への適応力を高めるという観点が大切である。

第2章第2節第2款の1（小・中12ページ）

【内容】「聞く・話す」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書②p99】
(1) 話のおよその内容を聞き取る。 (2) 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などを相手に分かるように話す。	・改定理由：①大体聞き取るというのは、「ほとんど聞き取る」ととらえられる考え方もあることを考慮して、ここは「大まかに」という意味合いで「およその内容を聞き取る」と改訂した。②小学部3段階(2)のところで、「自分の気持ちなど」が入ったことと関連し、より幅広い指導内容を設定するために、前半部分を改めた。 ・「話の内容をおよそ聞き取る」とは、日常生活の中で、教師など周りの大人の説明や家族、友達の話聞いて、その内容を大まかに理解したり、簡単な放送や録音を聞いて内容の概略を聞き取ったりすることができるようにすることである。

第2章第2節第2款の1（小・中12ページ）

【内容】「読む」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書②p101】
(3) 簡単な語句、文及び文章などを正しく読む。	* 例示の新設 ・指示を知らせる標識や案内板。ポスター。 ・いろいろな使用法や説明書（納品書や請求書、領収書） ・コンピュータ画面の電子メール等の文字を読む

2 社会

【改訂の要点】

- ・生徒の知的障害の状態等を考慮するとともに、近年の情報社会の状況等を踏まえ、より具体的な指導内容を設定できるよう内容を改めた。

第2章第2節第2款の1(小・中12ページ)

【内容】「社会の出来事」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p106】
(4) 日常生活で経験する 社会の出来事や通信、メディアなどに興味や関心 をもち、生産、消費などの経済活動に関する初歩的な事柄を理解する。	・改定理由:今日の情報通信メディアにかかわる事項の重要度が顕著になっていることを踏まえ、通信、メディアの部分を加えて改訂した。 ・ここに加えた「通信、メディアなど」とは、新聞、テレビその他の情報を入手する手段のことを意味している。 ・この場合の情報とは、日常生活で体験する出来事だけではなく、我が国や隣国などの出来事などを含む。 ・これらの中には、中学部の生徒には理解が難しい事項がある場合もあるが、世の中の流れのおよそをとらえるという観点での指導の配慮が必要である。

第2章第2節第2款の1(小・中12ページ)

【内容】「外国の様子」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p108】
(6) 外国の様子や世界の出来事などに 興味や関心 を持つ。	・例示に「インターネットなど」が加わった。 ・これらの情報の様々な手段をどのように活用しながら関心を持てるようにしていくかということだが、その際、体験的な学習を重視するという観点から、生徒が外国の方と接する機会などで配慮していくことも、大切な学習活動のひとつだと考えることができる。 ・外国語科については、学校によっては設けない場合もあると思われるが、外国の様子に関する内容は社会科の中でも扱うことになっているので、今日の社会全体の流れを踏まえた活動を行うことが大切である。

3 数学

【改訂の要点】

- ・生徒の知的障害の状態等を考慮し、より幅の広い指導内容が設定できるようにする視点から内容を改めた。

第2章第2節第2款の1(小・中12ページ)

【内容】「数と計算」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p111】
(1) 日常生活における初歩的な数量 の処理や計算をする。	・改定理由:日常生活で使う」ことが前提であるので「日常生活における」文言を加えた。 ・「日常生活における」とは、学校生活や家庭生活などにおけるという意味であり、そうした場においては、基本的には、生活に使うものの数を数える、現金の計算をする、調理で材料の重さを量るなどに役立つ指導内容の設定が大切である。

第2章第2節第2款の1(小・中12ページ)

【内容】「実務」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p114】
(4) 金銭や時計・暦などの使い方に慣れる。	・改定理由:指導内容に幅を持たせるため。 ・金銭に関する内容については、小学部の生活科の内容としても示されており、中学部では数学科の実務の内容として示されている。 *例示の新設 ・いろいろな各種カード ・「時計など」では、時計以外に、学校の時間割、遠足などの日程表、バスの時刻表など ・なお、日常生活での使用頻度が増えている現金や切符に代わる各種カードなどの使用については、個々の生徒の実態や地域性などに応じて指導することが望ましい

4 理科

【改訂の要点】

- (1) 目標は、生徒が身近な自然の仕組みや働きを大切にするだけでなく、事物や事象を含めて、できるだけ科学的に考えることも重要となっている視点から改めた。
- (2) 目標の改訂を踏まえるとともに、生徒の知的障害の状態等を考慮し、より具体的な活動を設定しやすくする視点から内容を改めた。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【目標】	改訂のポイント・補足説明【解説書② p116】
日常生活に関係の深い自然の仕組みや働きなどに関する初歩的な事柄についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養うとともに、自然を大切にす態度を育てる。	・改訂理由:生徒の知的状態等を考慮した科学的な見方などの指導も重要であることから「科学的な見方や考え方を養うとともに」を加えた。 ・「科学的な見方や考え方を養う」ことに関しては、「日常生活に関係の深い自然の仕組みや働き、事物・事象などについて、できるだけ客観的にとらえたり、予測したりする力を身に付けること」をさしている。 ・例えば、「雲の様子から天気の変化を予測したり、気温や湿度を数値でおおまかに理解したりすること、また熱くなったものの冷え方や、日常生活で使用する道具の仕組みや働きが概括的に分かること」などが考えられる。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「事物や機械」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p119】
(3) 日常生活に関係の深い事物や機械・器具の仕組みと扱いについての初歩的な知識をもつ。	・改定理由:日常生活における活動を重視するため。 ・「日常生活に関係の深い事物の仕組みと扱い」とは、例えば、日常生活で扱う電気、洗剤や石けん、砂糖や塩、サラダ油や天ぷら油などの食品、プロパンガスや都市ガスなどの熱源、コインやスプーンなどの金属、食品容器等に用いられるプラスチック、食器や鏡などに用いられるガラスなどがあげられている。 ・「日常生活に関係の深い機械・器具の仕組みと扱い」は、自転車やドリルや機械類、懐中電灯や扇風機、洗濯機などの日常生活で使用する電気器具など。

5 音楽

【改訂の要点】

- ・生徒の知的障害の状態等を考慮し、例示を増やすなど、より具体的な指導内容を設定できるようにする視点から、内容を改めた。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「器楽」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p124】
(3) 打楽器や旋律楽器などを使って、自由に演奏したり、合奏や独奏をしたりする。	・改定理由:を指導内容の幅を広げるという視点から「～など」加えた。 ・解説で少し例示を増やした。弦楽器である琴、コンガ、ボンゴ、マリンバ、雨の音や波の音、風の音などを出す楽器等である。 ・合奏の際の楽器として、テンブルブロック（音階木魚）、トーンチャイム（音階響きバー）やベルハーモニー（卓上ベル）、サウンドブロック（響く木琴）などを例示としてあげた。

6 美術

【改訂の要点】

- ・生徒の知的障害の状態等を考慮し、より具体的な指導内容を設定できるように内容を改めた。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「材料・用具」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p129】
(2) いろいろな材料や用具などの扱い方を理解して使う。	・材料や用具を扱う経験は、造形活動を活発にする観点からとても重要な指導内容ととらえている。 ・中学部段階では、扱う造形材料や用具の種類が増え、その扱い方も多様になる。 ・材料では硬質の素材や油性の塗料、溶剤の扱いに、用具では刃物や電動工具の取扱いに関して危険を伴うので、安全管理に留意しなければならない。

7 保健体育

【改訂の要点】

- ・生徒の知的障害の状態等を考慮し、より具体的な活動を設定する視点から、内容を改めた。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「いろいろの運動」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p132】
(1) 体づくり運動、簡単なスポーツ、ダンスなどの運動をする。	・武道に関しては、生徒の実態に応じて、相撲等を適宜取り扱うことが挙げられる。 ・生徒の実態に応じてということなので、自閉症のある子どもたちの場合、身体接触に際して相撲のような取り組みに配慮が必要な場合もあるので、生徒の実態に応じて適宜取り扱うという形としている。 ・球技では、簡易ルールで、フットベースボール、ティーボール、サッカー、バスケットボール、バドミントン、

	卓球などが取り上げられるが、例えば、バスケットのゴールの大きさや高さを変えたり、バドミントンのシャトルの代わりに風船を使用したりするなど、使用する用具やルールを生徒の実態に応じて工夫し、生徒がスポーツを楽しめるようにすることが大切である。
--	---

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

*【内容】「きまり」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p133】
(2) きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力して安全に運動をする。	・改定理由:きまりやルールを分かりやすく具体的な指導内容を設定しやすくするため。 ・いろいろな種類のスポーツがあるが、生徒の実態等からゲームの一般的なルールをそのまま適用するのではなく、ルールの数を少なくしたり、基準を緩めたりした簡易なルールを設定するなどの工夫をすることが大切である。このことによって生徒の興味・関心、意欲を喚起することができる。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「保健」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p134】
(3) 自分の発育・発達に関心をもったり、健康・安全に関する初歩的な事柄を理解したりする。	・性に関する指導については、この時期大変重要な内容であるし、関心の高い内容でもあることから、個々の生徒の知的障害の状態に応じて適切な指導内容を設定すること、また、家庭との密接な連携協力のもとに行っていくことが大切である。 ・水泳指導においては、水質などに十分に留意することも重要である。

8 職業・家庭

【改訂の要点】

・生徒の知的障害の状態等を考慮し、より具体的な活動が設定しやすくする視点から、内容を改めた。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「働くことの意義」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p138】
(1) 働くことに関心をもち、作業や実習に参加し、働く喜びを味わう。	・改定理由:学校での作業や産業現場等における実習などにおける体験を重視するため。 ・「作業や実習に参加し、働く喜びを味わう」とは、学校での作業や産業現場等の実習において、作業の準備をしたり、作業の片づけなど一連の活動に実際に取り組むということに加えて、それぞれの活動を確実に成し遂げ、達成感や成就感をもったり、製品などへの感想を受けて満足感を味わったりすることである。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

*【内容】「道具・機械等の取扱いや安全・衛生」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p139】
(3) 道具や機械、材料の扱い方などが分かり、安全や衛生に気を付け	・「材料の扱い方が分かり」とは、「材料や原材料の扱い方」「種類の名称が分かる」「材料の保管・管理」などを理解

ながら作業や実習をする。	することである。 ・「安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする」とは、食品や清掃、運搬・管理などに関する作業種の広がりが見られることをふまえた。 ・安全だけでなく衛生に関する指導、作業前作業後のうがいや手洗い、作業帽やマスクなどの着用して仕事をするすることである。
--------------	---

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「産業現場等における実習」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p141】
(5) 産業現場等における実習を通して、いろいろな職業や職業生活、進路に関心をもつ。	・「進路に関心をもつ」とは、実習を通して、生徒が自分の適性や持っている技能を理解できるようにすることによって、卒業後に就いてみたい仕事や働きたい職場などについて関心をもてるようにすることである。 ・また職種によっては技能取得や資格が必要なものがあることに触れ、関心が持てるようにすることである。 ・「産業現場等における実習」を計画するに当たっての留意点を6項目示している。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

【内容】「家庭に関する基礎的な事項」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p143】
(7) 家庭生活に必要な 衣服とその着方 、 食事や調理 、 住まいや暮らし方 などに関する基礎的な知識と技能を身に付ける。	・改定理由:より具体的に指導内容を設定できるようにするため。 ・「食事や調理」に関する内容例として、食品の衛生的な保存の仕方、食器棚を整理すること、メニューを見て料理を注文し、マナーを守って食事することなどが加えられた。 ・調理に関する活動は、非常に多くの学校で取り組んでいるので幅の広い指導ができるようにしてほしい。

第2章第2節第2款の1(小・中13ページ)

*【内容】「余暇」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p145】
(9) 家庭生活における余暇の 過ごし方が分かる 。	・改定理由:中学部段階では、主として家庭生活における余暇の過ごし方を知ることが重要であるため。 ・「家庭生活における余暇の過ごし方が分かる」とは、余暇の有効な過ごし方を自分の日常生活を通して実践することで、家庭生活に生かすことである。 ・「家庭生活」とは、家族や施設の仲間など、一緒に暮らす他人との生活であり、色々な生活形態があることを踏まえている。 ・「余暇の過ごし方が分かる」とは、その中で自分の趣味や家庭での団らんで自由になる時間を有効に使うことである。

9 外国語

【改訂の要点】

- ・生徒の知的障害の状態等を考慮し、内容の一部を、生徒にとってより身近な英語に親しむ視点から改めた。

第2章第2節第2款の1（小・中14ページ）

* 【内容】「英語とその表現への興味や関心」の観点	改訂のポイント・補足説明【解説書② p 147】
(1) 身近な生活の中で見聞きする英語に興味や関心をもつ。 (2) 簡単な英語を使って表現する。	・改定理由：より具体的な指導内容が設定しやすくなるようにするため。 ・中学部段階では、簡単な英語の歌を聞いたりして楽しむことや、生活で使う用具、機器、パンフレット、新聞などに使われている簡単な語を探すことなども挙げられる。また、ビデオやDVDでやさしい英語を扱った教材等を見たり、コンピュータで英語の文字当てゲームをしたりなどが考えられる ・英語で挨拶を交わす、簡単な動作を表す言葉を英語で話すなど。なるべく、生活の中の活動を通して学習できるようにすることが大切である。例えば、朝の会の中で英語を取り入れたり、いろいろな生活の場面で活動を通して学習をすることが大切である。

* Q & A

【Q 1】生活科を国語や理科と同じように単独で設定できるか。

- 【A 1】なかなか難しい。例えば教師と一緒に遊ぶという内容を生活科の授業としてやるならば、あり得るかもしれないが、実際、学校の状況を見てみると日常生活の指導に合わせたような形の中でやっていることが多いのではないだろうか。生活科という教科を出たときの解説を読むと、それは合わせた指導のコンテンツ（内容や情報）であるという表現がある。生活科は子どもに応じて多様にできる、合わせた指導のコンテンツとして考えていくことができる。

【Q 2】マナーとは、どのあたりまで考えるのか。

- 【A 2】解説には、「日常生活における作法や習慣などで、集団生活において周りが不快に感じないような行為や振る舞いであり、食事を行儀よく食べることや公共の場で迷惑を掛けないことなどを身に付けること」と書かれている。小学部の子どもたちにはこのあたりまでのことをマナーと考えている。2段階、3段階にもそのような内容を今回入れた。

【Q 3】日課とは何か。時間割のことか。

【A 3】時間割だけでなく、朝登校してからの係活動、朝の会、活動や授業、お昼ごはん、昼休みがあってまた授業がある、帰りの支度をして帰る。この一連の流れを日課ととらえる。

【Q 4】図画工作科、1段階の（2）のところに「土、紙、木など」という材料が明記された。この例示は必ず使わないといけないのか。

【A 4】ほかの材料を使ってもよい。例示だから「など」がついている。子どもの状況に応じたり、その地域特性に応じたものを使っても良い。

【Q 5】各教科等の具体的な指導内容を設定するということだが、これまで例えば単元や作業学習での個別の指導計画を立てている場合、それに加えてその中で扱っている教科の具体的な指導内容を盛り込んだものが個別の指導計画の中に出てこなければいけないのか。

【A 5】たとえば作業学習において、単元「作業～」などのとき、A君について「こういうねらいを立てて、こういう指導内容を設定して、こうするんだ」という個別の指導計画がある。それでいいのでは。合わせた指導なので、A君の個別の指導計画で立てた指導内容の中に国算数理社などの各教科や自立活動等が、単元によって入っている場合もあるし、入っていない場合もある。その中に合わせた指導が入っていることが、きちんと説明できればよい。その時に国算数理社職家等を、1回全部書き出して分けて書くという作業は必要ない。その単元の特性に応じてA君のねらいやB君の内容を色々決めるが、それが1年間終えたとききちんと各教科が一部でも履修されていることを説明できることが重要である。